

加藤政之助 （あかたけのりすけ） 政治家。嘉永七年七月十八日武藏國足立郡馬室村生れ、昭和十八年八月二日歿（八五歳一五〇）。號城陽、城陽小史。明治二年父の死後推され十六歳で村長になり、のち埼玉縣に出仕。八任縣官を辭して慶應義塾入學。在學中「東京日日新聞」、（東京日日新聞）、「東京曙新聞」等の論説を寄稿。十一年「大阪新報」主幹、次で「郵便報知新聞」記者となり、紙上で自由民権説を展開した。十四年埼玉縣會議長と經て、翌年改進黨入黨。二十五年衆議院議員（當選十一回）となり、實業界でも活躍。大正十年武陽實業學校を創設して校長就任、自ら修身科を擔當して教壇に上つた。その後、大東文化學院總長。

譯著は、ダンニール、ジセツフ、キルワン著「西洋穴探初編」（明治十一年七月中島精一出版。翌年第一編、第三編刊）、纂譯「英國名士回大論談」（明治十八年十月月刊、岡島眞七・岡島支店）、（世界大戦と新日本の建設）（昭和四年二月十一日平凡社）、（加藤政之助回顧録）（昭和二十二年二月十一日加藤憲章刊）等。「加藤政之助翁略傳」（昭和十一年七月五日埼玉・岸上克己論刊、加藤初頭徳記念會）がある。

